



大黒屋「江戸木箸」
五角／七角／八角削り箸(上から順に)

1本ずつ手で削ってつくられた箸で、五角・七角・八角の中から自分の手に合うものを選ぶ。「多面体の形状というのはデザインもモダンですし、持ちやすく使いやすい。しかも樹種も厳選された銘木を使用している。自信をもって選べるものです」五角 3150円～、七角 5250円～、八角 6300円～

問：大黒屋 Tel: 03-3611-0163
www.edokibashi.com

ヒロタガラスクラフト「江戸切子」粋と技シリーズ

紅 オールドグラス 菊葉ぎ／紅 ミニオールドグラス 市松／
黒 ミニオールドグラス 亀甲／
黒 ミニオールドグラス 六角箆目(左から順に)

江戸時代末期からはじまったカットグラス工法のガラス細工。スタンダードの小説をモチーフとした赤と黒の配色で、伝統模様を現代風にデザインしている。「日本にもこれだけ価値のあるガラス食器があるということ再発見してもらいたいですね」左1万5750円、その他すべて1万500円

問：ヒロタガラスクラフト Tel: 03-3623-4148
www.edokirikou.net



塩澤製作所
「響の息吹 北斎とんぼ」

昭和17年より神輿や神社などの鋳金具をつくり続ける塩澤製作所。「真鍮や銅に鑿で模様を打ち込む伝統的な技術でつくられた名刺入れという現代的なアイテムであることに魅力を感じます」北斎とんぼ 7万3500円

問：塩澤製作所 Tel: 03-3621-7983
http://tagane.jp



金属とは思えないほど、美しく繊細な模様。「響の息吹 波に千鳥」6万3000円



指物益田「おとも箱」

釘などを一切使わない指物の技術を用い、携帯用薬入れであった印籠をアレンジした小物入れ。1本の角材をくり抜き、木の質感と木目を活かしている。「若い江戸指物職人がつくったもの。こういう方が墨田で仕事をしていることは、大事です！刺激にもなりますよ」6800円～

問：指物益田
Tel: 03-6315-8546
www.hozonkai.com/Daisuke_Masuda.html

What's
SUMIDA

墨 田区は江戸庶民文化発祥の地であると同時に、伝統技術を有した職人と近代軽工業の基盤を支える製造業者によって発展を遂げてきた街である。そんな墨田区の新しい時代を代表する銘品を提案していくべく生まれたのが「すみだモダン」だ。

「すみだモダン」とは毎年、区内でつくられた幅広いジャンルのものの中から、伝統的な技術と現代性を融合させた商品だけに認証されるブランド。「街の魅力には、街並み、人波み、営み」の3つの「なみ」があります。3つの要素はそれぞれ大切ですが、まずは

のづくり＝営みに光をあてることで、ここで仕事をする人たちがより輝き、墨田区の本当の魅力が浮き出てくるのではないかと考えました」と水野誠一さんはいう。職人の街は数あれど、江戸の頃より最先端の都市として栄えてきた街は墨田区しかないであろう。当時の空気を色濃く残し、そのエネルギーを現代に活かしていく。「すみだモダン」の商品は絶えず選ばれたものであり、進化していくブランドにしていきたい。すみだモダンはひとつのきっかけですから、それぞれが自立し、世界に飛び立つてくれたらうれしいですね」

二葉桐工房「RAKUZA」
SEIZA(小)／AGURA(中)／STOOL(大)

軽く温かい桐の特徴を生かしてつくられたスツール。片手で持ち運べ、座り心地もよい。「踏み台や子ども用の椅子としてなど、使い方は現代的で多彩ですが、ジョイント部分には蟻ホゾ組という伝統技術を採用している。ここも評価されたポイントです」SEIZA8400円、AGURA1万7850円、STOOL2万9400円

問：二葉桐工房 Tel: 03-6657-0627
http://futabakirikoubou.co.jp



蟻ホゾ組を採用したジョイント部分。台形の組み込みも精密で高度な技が見える



根岸産業「銅製如雨露」

殺菌作用のある銅を素材とし、竿を長く穴を小さくすることで、きめ細やかな散水を可能としている。「盆栽のみならず自分が端正に育てている植物にいい道具で水をやる、その行為がおもしろいと思うんです。使い方として新しさを提案していますよ」2万5200円

問：根岸産業 Tel: 03-3611-2959 www.negishi-joro.co.jp

MODERN?

MADE IN TOKYOの新しくつかしいものづくり

「すみだモダン」を知っていますか?

あたらしくある。なつかしくある。



2012年に東京都・墨田区にて開業した東京スカイツリー®。それを契機に日用品、衣類、食品類などに「すみだモダン」のブランド認証を与え、PRを図るプロジェクトが'09年にスタート。「すみだモダン」とはどのようなもの?

文=大森奈央 写真=仁田慎吾
text:Nao Omori photo:Shingo Nitta

お話を伺ったのは
水野誠一さん

西武百貨店社長、慶応義塾大学特別招聘教授、参議院議員などを歴任。IMAやプロジェクト・パートナーズの代表の他、複数の企業や団体にて活躍中。すみだ地域ブランド推進協議会の理事長を務める



磯貝ベッ甲専門店
「ベッ甲の耳掻き」

両国の地に昭和14年に創業し、三代に渡り、その技術を継承し続けてきた磯貝ベッ甲専門店。江戸時代より変わらないあめ色が美しい。ケースは人形の着物地を使用している。「たんばく質のため弾力がありソフトな肌触りのベッ甲は、デリケートな耳に優しく耳掻きに最適な素材なんです」各3675円

問：磯貝ベッ甲専門店
Tel: 03-3625-5875
http://isogai-bekko.com



一つひとつ丁寧な手作業でさじ部分の丸みをつくり、柄は使いやすいように長く仕上げている